

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-194688

(43)Date of publication of application : 30.07.1996

(51)Int.CI. G06F 17/21

(21)Application number : 07-005179 (71)Applicant : TOSHIBA CORP
TOSHIBA SOFTWARE ENG KK

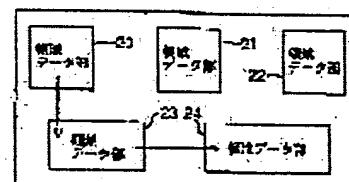
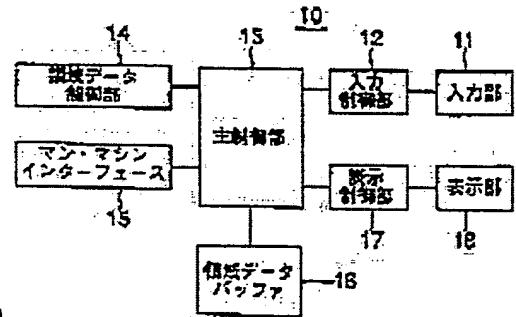
(22)Date of filing : 17.01.1995 (72)Inventor : KAWATSU YASUO

(54) DEVICE AND METHOD FOR PREPARING DOCUMENT

(57)Abstract:

PURPOSE: To totally standardize a format while utilizing attributes by providing a format setting means for interlocking the attributes stored in a storage means and simultaneously equally setting the formats of desired plural document data.

CONSTITUTION: Format interlock information is set to area data parts 20, 23 and 24, any area data part to be a reference such as the data part 20, for example, is decided, and a nominating command for nominating the data part 20 is inputted from an input part 11 and sent to a through an input control part 12 to a main control part 13. The main control part 13 arithmetically processes this nominating command, sends it to a man-machine interface 15 and nominates the data part 20 of an area data buffer 16. After this nomination, that information is sent to an area data control part 14 and the control part 14 retrieves the other area data part 23 and 24 at which the format interlock information is set. Then, the format of the data part 20 to be the reference such as the size of character for five points, character interval for 1/8 and describing method for lateral write, for example, is set to these all the other retrieved data parts 23 and 24.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of

rejection]

[Kind of final disposal of application other than
the examiner's decision of rejection or
application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-194688

(43)公開日 平成8年(1996)7月30日

(51)Int.Cl.
G 06 F 17/21

識別記号

序内登録番号

P 1

技術表示箇所

9288-5L

G 06 F 15/20

530 E

審査請求 未請求 請求項の数4 OL (全10頁)

(21)出願番号 特願平7-5179

(22)出願日 平成7年(1995)1月17日

(71)出願人 0000013078

株式会社東芝

神奈川県川崎市幸区坂川町72番地

(71)出願人 000221138

東芝ソフトウェアエンジニアリング株式会
社

東京都青梅市新町1385番地

(72)発明者 川津 康雄

東京都青梅市新町1385番地 東芝ソフトウ
エエンジニアリング株式会社内

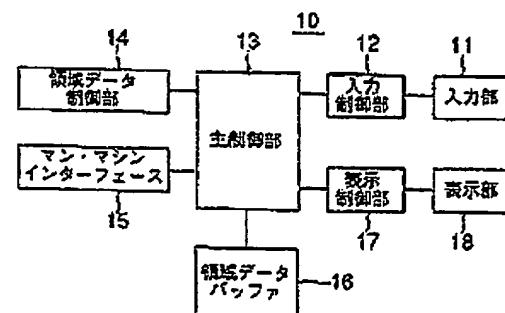
(74)代理人 弁理士 佐藤 一雄 (外3名)

(54)【発明の名稱】 文書作成装置および文書作成方法

(57)【要約】

【目的】複数領域の書式を一括して変更するものである。

【構成】複数の文書データとともに書式情報、追跡情報、書式追跡情報等の属性を記述する記述手段16と、この記述手段16が記述した属性を追跡させ文書データの書式を一括して同一に設定する書式設定手段11、13、14、16とを備えものである。



(2) 特開平8-194688

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】各領域に対応した文書データとともに書式情報、運動情報、書式運動情報等の属性を記憶する記憶手段と、

この記憶手段が記憶した属性を運動させ所定の複数の前記文書データの書式を一括して同一に設定する書式設定手段と、

を備えたことを特徴とする文書作成装置。

【請求項2】書式運動手段には記憶手段が記憶する1部あるいはすべての属性を選択して変更設定する変更選択設定手段を備えたことを特徴とする請求項1に記載の文書作成装置。

【請求項3】各領域に対応した文書データとともに書式情報、運動情報、書式運動情報等の属性を記憶し、

この記憶した属性を運動させ所定の複数の前記文書データの書式を一括して同一に設定する。

ことを特徴とする文書作成方法。

【請求項4】記憶した1部あるいはすべての属性を選択して変更設定することを特徴とする請求項3に記載の文書作成方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は文書作成装置および文書作成方法に係り、特に、異なる領域の文書データの書式を一括して変更可能となるようにした文書作成装置および文書作成方法に関する。

【0002】

【従来の技術および発明が解決しようとする課題】一般に文書作成装置が作成する文書の書式は使用者が自由に選択し決定している。例えば、文字の大きさを5ポイント、10ポイント等にしたり、文字間隔を0文字、1／8文字等にしたりあるいは記載方法を横書き、縦書き等にしたりしている。

【0003】このよにして作成した多款の文書を用いて新聞、雑誌等のレイアウト編集する場合には文書を連結するとともにその書式を統一しなければならないことがある。

【0004】従来、これらの書式を統一するにはそれぞれの領域での文書毎に文字の大きさ、文字間隔等を変更処理していた。

【0005】そのため、オペレータは煩しい操作を強いられ文書のレイアウト編集に時間がかかると言う問題があった。

【0006】そこで本発明は文書のレイアウト編集を行うときに複数の所定の領域の書式を一括して変更するようにした文書作成装置および文書作成方法を提供することを目的とするものである。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明は、各領域に対応した文書データとともに書式情報、運動情報、書式運動

2

情報等の属性を記憶する記憶手段と、この記憶手段が記憶した属性を運動させ複数の所定の前記文書データの書式を一括して同一に設定する書式設定手段とを備えたことを特徴とする文書作成装置を提供するものである。

【0008】また、書式運動手段には記憶手段が記憶する1部あるいはすべての属性を選択して変更設定する変更選択設定手段を備えたことを特徴とする文書作成装置を提供するものである。

【0009】またさらに、各領域に対応した文書データとともに書式情報、運動情報、書式運動情報等の属性を記憶し、この記憶した属性を運動させ複数の所定の前記文書データの書式を一括して同一に設定することを特徴とする文書作成方法を提供するものである。

【0010】さらに、記憶した1部あるいはすべての属性を選択して変更設定することを特徴とする文書作成方法を提供するものである。

【0011】

【作用】各領域に対応した文書データとともに書式情報、運動情報、書式運動情報等の属性を記憶する。この記憶した属性を運動させ複数の所定の前記文書データの書式を一括して同一に設定する。

【0012】また、記憶した1部あるいはすべての属性を選択して変更設定する。

【0013】

【実施例】以下、本発明文書作成装置および文書作成方法の一実施例を添付図面について説明する。

【0014】図1は本発明文書作成装置および文書作成方法を実施するためのプロック図である。

【0015】この文書作成装置10にはキーボード等を備えた入力部11が設けられ、文字、図面等の入力データおよび各部を制御する種々の指令を入力するようになっている。この入力部11には入力制御部12を介してCPU等を備えた主制御部13が接続され、入力データ等を演算処理し各部の制御を行うようになっている。

【0016】この主制御部13には領域データ制御部14、マン・マシン・インターフェス15、領域データバックファ16および表示制御部17を介して表示部18が接続されている。領域データ制御部14では主制御部13から受ける演算処理指令により領域データバックファ16の各種データの初期化、参照、記憶、変更、作成、コピー等をするようになっており、マン・マシン・インターフェス15では入力部11、主制御部13、領域データ制御部14および表示部18との連係を行うようになっており、領域データバックファ16では種々なデータを記憶・読み出しができるようになっており、表示部18では表示制御部17の制御により入力データ、レイアウト編集データ等を表示するようになっている。

【0017】領域データバックファ16には図2に示すように複数の領域データ部20、21、22…が設けられ、これらの領域データ部20、21…等には図3に示

(3)

特開平8-194688

3

すように言式情報20a、追結情報20b、言式追結情報20c、実データ20d…等の属性を記憶するようになっている。

【0018】このように構成した本発明文書作成装置10の作動を図4、図5…等に示すフローチャートを参照しながら説明する。

【0019】まず、領域データバッファ16の領域データ部20、21…に所定の言式を設定する場合を説明する。

【0020】入力部11から言式を設定する領域データ部、例えば、領域データ部20、23…を選択する選択指令を入力する。この選択指令を入力副御部12、主制御部13を介して領域データ制御部14に送る。この選択指令を受けた領域データ副御部14ではその指令を主制御部13を介して領域データバッファ16に送り領域データ部20、21…を選択する(S1)。

【0021】この選択した領域データ部20、23…には領域データ副御部14の副御により図5に示すように言式追結情報を設定する(S2)。

【0022】領域データ部20、23、24に言式連動情報の設定をしたら他の領域データ部21、22…等に言式追結情報を設定する否かを判断し(S3)。設定する必要があれ場合には領域データ部21、22…を選択し(S1)、言式連動情報を設定する(S2)。

【0023】領域データ部20、23、24に言式連動情報を設定したら基準となる領域データ部、例えば、領域データ部20を決め入力部11からその領域データ部20を指名する指名指令を入力する。この指名指令を入力副御部12を介して主制御部13に送る。この指名指令を受けた主制御部13ではこの指名指令を演算処理してマン・マシン・インターフェイス15に送り領域データバッファ16の領域データ部20を指名する(S4)。

【0024】この指名を行ったらその情報を領域データ制御部14に送る。この情報を受けた領域データ副御部14は言式連動情報を設定した他の領域データ部23、24…を検索する(S5)。この検索した他のすべての領域データ部23、24…に図6に示すように基準となる領域データ部20の言式、例えば、文字の大きさを5ポイント、文字間隔を1/8、記載方法を横書き等に設定する(S6)。

【0025】このような言式の設定がすべての領域データ部21、22…に行われたか否かを検索し、検索済みがあればさらに他の領域データ部を検索し(S5)、この領域データ部に基準となる言式を設定する(S6)。検索済みが無ければ言式を設定を終了する(S7)。

【0026】このようにすればレイアウト編集を行うすべての領域データ部の言式を一括して統一することができるからレイアウト編集の効率化を図ることができる。

【0027】つぎに、領域データ部20、21…に記憶した言式を変更する場合につき図7に示すフローチャー

トにより説明する。

【0028】いま、領域データ部20、21…には上記方法により言式連動情報が設定されているとする。この領域データ部20、21…の中から言式を変更する場合には1つの領域データ部、例えば、領域データ部20を指名する。この指名した領域データ部20を選択するため入力部11から選択指令を入力する。この選択指令を入力副御部12、主制御部13を介して領域データ制御部14に送る。この選択指令を受けた領域データ副御部14は主制御部13を介して領域データバッファ16から言式を変更する領域データ部20を選択する(S1)。この選択した領域データ部20には領域データ制御部14の副御により変更する言式、例えば、横書き情報を設定する(S12)。

【0029】このように変更した領域データ部20に連動する他の変更を行う領域データ部23、24…を検索する(S13)。この検索した領域データ部23、24…には変更した領域データ部20の横書き情報を順次設定する(S14)。

【0030】変更を行うすべての領域データ部が検索されたか否かを判断し(S15)、検索があれば領域データ部の検索(S13)、変更を行う言式の設定を行い(S14)、流れがなければ言式の変更を終了する。

【0031】このようにしてレイアウト編集を行う領域データ部20…等の言式を常に所定の言式に設定することができる。

【0032】さらに、領域データ部20、21…等の連結元と連結先とに言式連動情報を設定し言式を設定する場合を図8に示すフローチャートにより説明する。

【0033】まず、領域データ部20、21…の連結元と連結先とに言式連動情報を設定するか否かを判断する(S21)。この判断で連結元と連結先とに言式連動情報を設定する場合にはその領域データ部、例えば、領域データ部20と22とを連動する言式連動情報指令を入力部11から入力する。言式連動情報を設定しない場合には終了する。

【0034】この言式連動情報指令を入力副御部12、主制御部13を介して領域データ制御部14に送る。この言式連動情報指令を受けた領域データ制御部14から

40 は言式連動情報指令を領域データバッファ部16に送り連結元と連結先となる領域データ部20と22とを選択する(S22)。

【0035】この選択した領域データ部20と22には領域データ制御部14の副御により言式連動情報を設定する(S23)。この連結により連結元となる領域データ部20から連結先となる領域データ部22に言式を設定する(S24)。この設定を主制御部13を副御により表示制御部17を介して表示部18に送り連結を完了させる(S25)。

50 【0036】このようにして領域データ部20と22と

(4)

特開平8-194688

5

の書式追跡情報の設定を行うとともに書式の設定も行うから統一した書式情報によりレイアウト図集を簡単にを行うことができる。

【0037】またさらに、領域データ部20、21…等に記憶した書式情報をすべて変更する場合あるいは特定のもののみを選択して変更する場合について図9に示すフローチャートにより説明する。

【0038】まず、領域データ部20に基準となる書式を設定する。この基準となる領域データ部20の書式を他のすべての領域データ部21、22…に設定するか否かを判断する(S31)。この判断すべての領域データ部21、22…に基準となる領域データ部20の書式を設定する場合には入力部11から一括書式変更指令を入力する。この変更指令を入力制御部12、主制御部13を介して領域データ制御部14に送る。この変更指令を受けた領域データ制御部14が一括変更指令を主制御部13を介して領域データバッファ部16に送りこの領域データ部21、22…等の書式を基準となる領域データ部20の書式に変更する。

【0039】また、変更を特定のもののみを対象として行う場合には変更したい領域データ部21、22…等を選択する(S32)。この選択はすべての領域データ部21、22…等から書式追跡情報が設定されている領域データ部を検索して行う(S33)。このようにして検索した領域データ部21、22…に基準となる領域データ部20の書式を設定する(S34)。この設定がすべての領域データ部21、22…を検索して行ったか否かを判断し流れがあれば他の領域データ部25、26…を選択(S32)、検索(S33)、書式の設定(S34)等を行い流れがなければ終了する(S34)。

【0040】このようにして領域データ部21、22…の全体あるいは部分的に書式設定を行いレイアウト図集の効率化を図ることができる。

【0041】さらに、領域データ部20、21…等に記憶した実データをコピーする場合に領域データ部20、21…等が連結されている場合には基準となるコピー元の書式をコピー先の書式に順次設定する場合を図10に示すフローチャートにより説明する。

【0042】レイアウト図集において領域データ部20に記録した実データをコピーを行う(S41)。このコピーを行う場合他の領域データ部21、22…等を連結してコピーを行うか否かを判断する(S42)。この判断により連結を行う場合にはコピー元となる領域データ部20とコピー先となる領域データ部21、22…等の書式追跡情報を設定する(S43)。

【0043】この設定したコピー元となる領域データ部20とコピー先となる領域データ部21、22…等の連結をするか否かを判断する(S44)。この判断により

6

連結する場合には連結処理を行う(S45)。

【0044】この連結によりコピー元となる領域データ部20の書式情報と同一の書式情報をコピー先となる領域データ部21、22…等に設定できレイアウト図集を連結的に行うことができる。

【0045】

【発明の効果】本発明は、各領域に対応した文書データとともに書式情報、追跡情報、書式追跡情報等の属性を記憶する記憶手段と、この記憶手段が記憶した属性を連結させ所望の複数の前記文書データの書式を一括して同一に設定する書式設定手段とを備えたから属性を利用して書式を一括して統一することができる。

【0046】また、書式追跡手段には記憶手段が記憶する1部あるいはすべての属性を選択して変更設定する変更選択設定手段を備えたから書式を部分的あるいは全体的に統一することができる。

【0047】またさらに、各領域に対応した文書データとともに書式情報、追跡情報、書式追跡情報等の属性を記憶し、この記憶した属性を連結させ所望の複数の前記文書データの書式を一括して同一に設定するようにしたから属性を利用して書式を一括して統一することができる。

【0048】さらに、記憶した1部あるいはすべての属性を選択して変更設定するようにしたから書式を部分的あるいは全体的に統一することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明文書作成装置および文書作成方法の概要を示すブロック図。

【図2】図1の主要部を示す説明図。

【図3】図2の主要部を示す説明図。

【図4】図1の動作を示すフローチャート図。

【図5】図1の動作を示す説明図。

【図6】図1のさらに他の動作を示す説明図。

【図7】図1の他の動作を示すフローチャート図。

【図8】図1のさらに他の動作を示すフローチャート図。

【図9】図1のさらに他の動作を示すフローチャート図。

【図10】図1のさらに他の動作を示すフローチャート図。

【符号の説明】

10 文書作成装置

11 入力部

13 主制御部

14 領域データ制御部

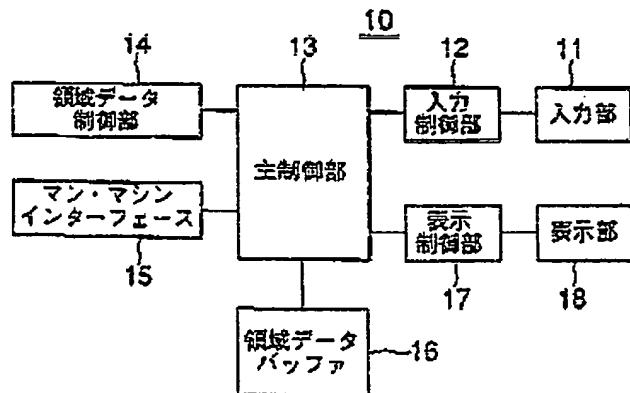
16 領域データバッファ部

18 表示部

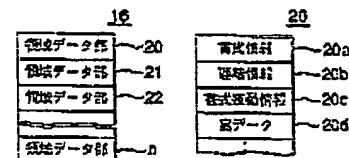
特開平8-194688

(5)

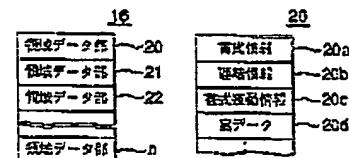
【図1】



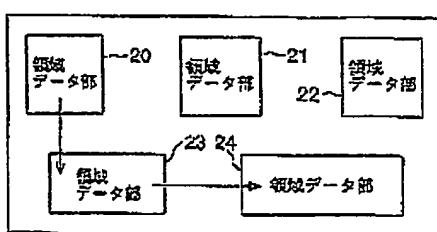
【図2】



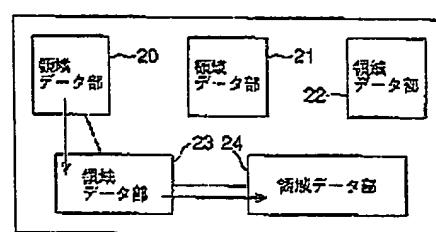
【図3】



【図5】



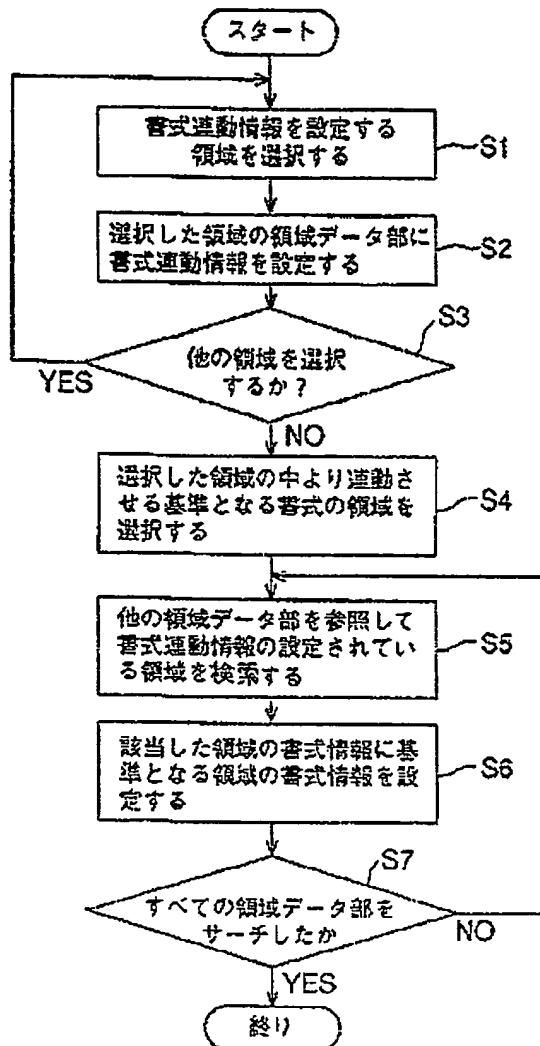
【図6】



(5)

特開平8-194688

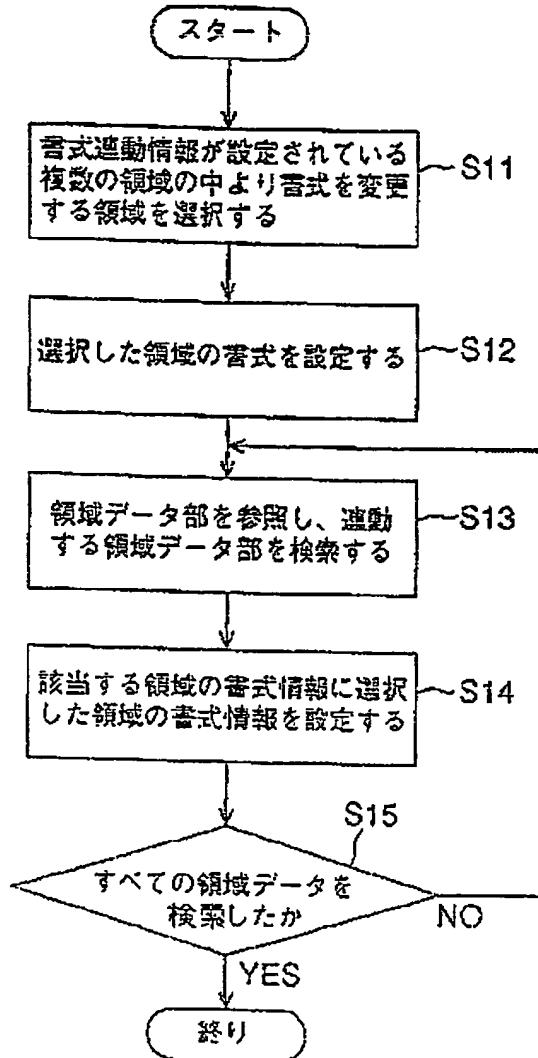
【図4】



(7)

特開平8-194688

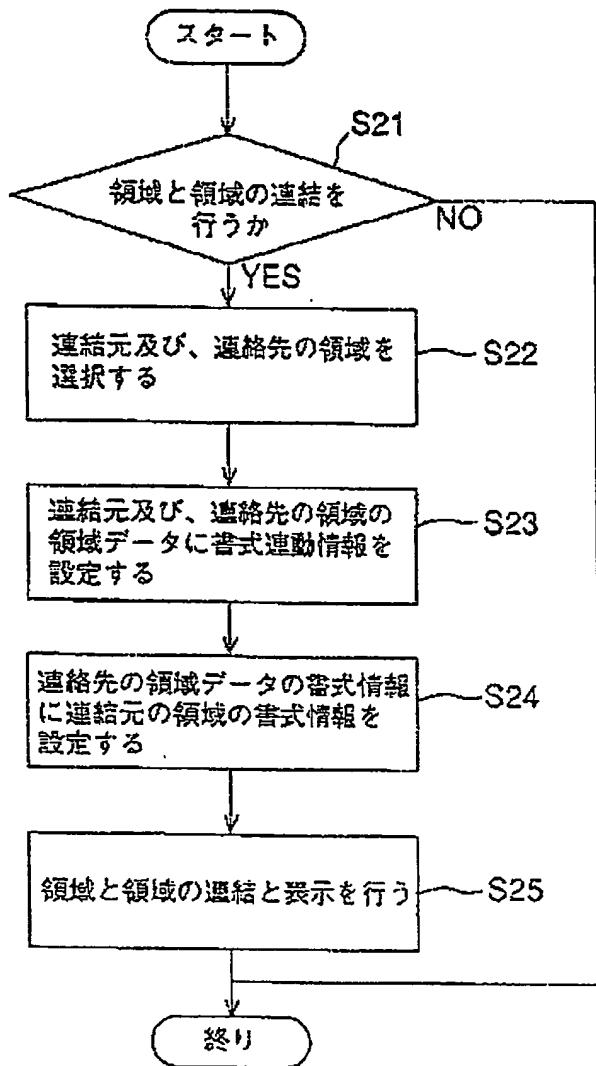
[図7]



(8)

特開平8-194688

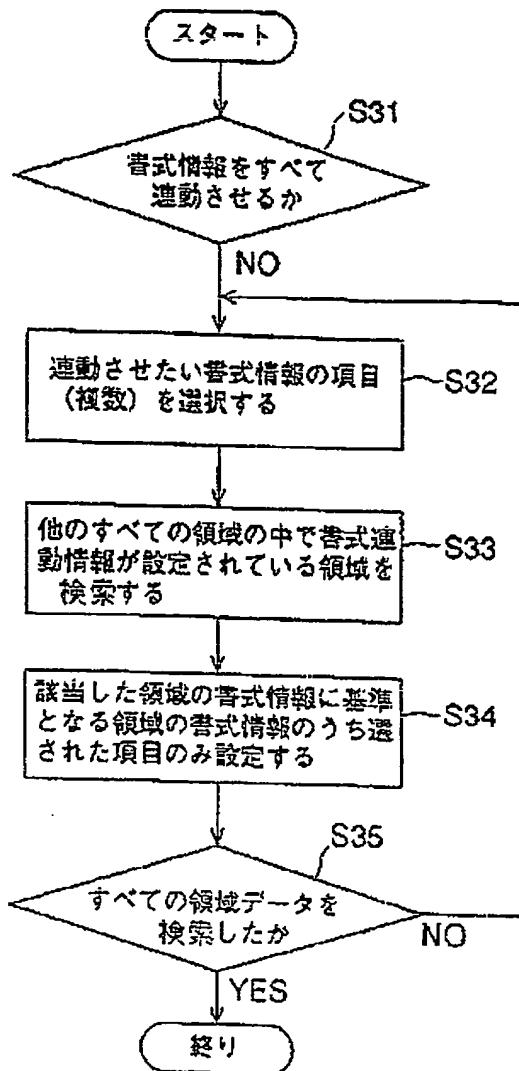
[図8]



(9)

特開平8-194688

[図9]



(10)

特開平8-194688

[図10]

